

令和3年5月27日

各大学代表者 各位

全日本学生アーチェリー連盟
競技委員長 島 航士郎

全日本学生アーチェリー王座決定戦 監督コーチ会議 開催について

王座決定戦監督コーチ会議を下記の要領にて行います。つきましては各チームの代表者の方はご出席の程よろしくお願い申し上げます。

記

第60回 全日本学生アーチェリー 男子王座決定戦
第56回 全日本学生アーチェリー 女子王座決定戦
監督コーチ会議

1. 日 程 令和3年6月19日(土) 10:00～
2. 会 場 旧レクリエーションセンター
3. 出席者 ・大会競技役員
・各チームの監督、コーチ登録を行った方(王座の監督者のみで結構です)
4. 議 題 大会概要
大会競技方法
注意点
アンチドーピング啓蒙活動について
質疑応答

第 60 回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦

第 56 回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦

監督会議資料

全日本学生アーチェリー連盟

競技方法

<公式練習>

- ・行射は 70m の射距離で、制限時間 4 分間の 2 立ちの行射を要項規定時間まで繰り返す。

<用具検査>

- ・用具検査は、チーム単位（選手 4 名(もしくは 3 名)+コーチ）で行う。
- ・まず、チーム全員(コーチを含む)の服装検査を行う。服装は競技に参加する服装と同じものとし、選手は競技者番号を所定の位置に付けること。コーチはコーチ証を明瞭に見える位置に付けること。
- ・服装検査終了後、それぞれの選手について順に用具（会員証(学生証)・スターバッジを含む）の検査を行う。

<競技種目>

- ・ターゲットアーチェリーのオリンピックラウンド団体戦を、全日本アーチェリー連盟競技規則(2020～2021 年)により行う。

<ランキングラウンド>

【チームについて】

- ・1 チームは 4 名（または 3 名）の選手で構成される。
- ・チームのすべての選手は予選ラウンド開始前にエントリーがなされていなければならず、途中変更することはできない。

【行射について】

- ・行射は男女共に 70m の射距離で 122 c m の標的を用いて 72 射する。
- ・ABC の 1 立を 1 エンド 4 分 6 射で行い、ABC 行射・矢取り、ABC 行射・矢取り、の繰り返しとする。
- ・行射はデジタル時計とブザーで管理し、30 秒前には黄信号を表示する。
- ・用具破損が発生した場合は、審判員にアピールすることによって修理または交換することができる。補充矢の時間は最大 15 分間与えられる。

【順位決定について】

- ・ランキングラウンドでのチームの上位 3 名の合計点をそのチームの得点により順位を決

定し、その順位に従ってトーナメント表に割り付けられる。

- ・ ランキングラウンドで同点の場合、10点数の多いチームが上位、これも同じならばX（インナー10）数の多いチームが上位とする。これも同じ場合、クジ引きによって順位を決定する。

<ファイナルラウンド>

【チームについて】

- ・ ファイナルラウンドにはランキングラウンドに出場した選手が出場する。
- ・ ファイナルラウンドはトーナメント形式で行い、男女各18校はランキングラウンドの順位に従ってトーナメント表に割り付けられる。
- ・ 出場選手は各チーム3名とし、審判員に申告することで登録された選手間の交代を認める。交代は各対戦の開始前に行うことができ、1つの対戦のエンド毎にすることはできない。
- ・ 行射しない4人目の選手の待機場所はコーチエリアのみとする。
- ・ コーチ登録を行った者は、チームと同じユニフォームの着用を義務づける。
- ・ コーチ登録を行った者は、コーチエリアにて選手に対して助言を行うことができるものとする。ただし選手に触れることや電子機器を使用することはできない。

【行射について】

- ・ すべての行射は、70mの射距離で122cmの標的を用いて行う。
- ・ 1対1のマッチを6射（各競技者が2射）最大4セットのセット制で行う。1セットの制限時間は2分とする。
- ・ 各セットで、6射の合計点が高い方のチームが2ポイントを獲得し、低い方のチームは0ポイント、同点の場合は両チームが1ポイントずつ獲得する。
- ・ これを最大4セット繰り返し、先に5ポイント獲得したチームがその対戦の勝者となる。
- ・ 行射は両チームの3名の競技者が1mラインの後方にいる状態で開始され、行射開始の合図後に第1競技者が1mラインを越えることができる。
- ・ イリミネーションラウンド～ファイナルラウンドでは、チーム毎に1名の競技者のみがシューティングラインに立つことができる。他の競技者はシューティングライン後方1mの位置に設けられた1mラインよりも後ろで待機しなければならない。この時、行射を終了した競技者が1mラインの手前に戻ってからでなければ、次の競技者が1mラインを越えることはできない。
- ・ イリミネーションラウンド～ファイナルラウンドにおいて、競技者はシューティングラインに立つまでクィーバーから矢を取り出すことはできない。
- ・ 同一チームの3競技者とチームのコーチは、シューティングライン上にいるか否かにかかわらず、お互いに助言を与え合うことができる。行射の間、コーチは、コーチボックスの中からのみコーチできる。

- ・同チーム3名の競技者のいずれかが、時間外発射をした場合は、そのチームの最高得点の矢の点数を削除する。
- ・すべてのマッチにおいて4セット終了後ポイント数が同ポイントの場合は、1人1射ずつ1チーム計3射のシュートオフを制限時間60秒で行う。点数によるシュートオフを1回のみ行い、それでも同点の場合は、中心からの距離で勝敗を決する。1/16～セミファイナルでのシュートオフの行射は同時に行われ、ブロンズメダルマッチおよびゴールドメダルマッチでは、第1セットを先攻したチームの1人目が1射した後、後攻チームの1人目が1射を行う。その後、順次、先攻・後攻の順に2人目・3人目の行射を行う。

【対戦形式について】

- ・すべてのマッチにおいて1チームにつき1的を使用して行う。
- ・1/8イリミネーションは男女ともに8対戦（16チーム）を同時射ちで行う。
- ・1/4ファイナルは男女ともに4対戦（8チーム）を同時射ちで行う。
- ・セミファイナルは男女ともに2対戦（4チーム）を同時射ちで行う。
- ・1/16イリミネーション～セミファイナルにおいては選手全員が矢取りを行う。
- ・ブロンズメダルマッチおよびゴールドメダルマッチは男女別に1対戦ずつ行い交互射ちとする。
- ・ブロンズメダルマッチおよびゴールドメダルマッチで各チームはエージェント（代理人：競技者に代わって得点を確認する人）を指名しなければならない。ランナー（矢取り員：競技者に矢を渡しに行く人）は競技役員が行なう。
- ・イリミネーションラウンド～ファイナルラウンドでは競技者の用具破損による延長時間は与えられない。

<罰則規定>「主な違反」

- ・1mラインの前方に同時に2名以上の競技者が進入した場合。
- ・行射開始の合図の前に第1競技者が1mラインを越えた場合。
- ・シューティングラインに立つ前に矢をクィーバーから取り出した場合。

これらのように、違反に該当する行為があった場合、審判員がイエローカードを挙げてチーム名をコールして、選手・コーチに注意を与える。注意を与えられた選手は、1mライン後方に戻り、もう1回やり直さなくてはならない。審判員が注意を与えてもそれを無視し行射をした場合、審判員がレッドカードを挙げそのチームの最高点が削除される。